

14 ICT と私たちが築く未来

情報通信技術（ICT）は、「便利であってほしい」「助けてほしい」「面白くしてほしい」という人間の希望を、次の3つの組み合わせで実現しています。

- **ハードウェア**（物理的な施設、設備、機器の基盤）
- **ソフトウェア**（機器を機能させ、データから望む結果を導く論理的な仕組み：AIを含む）
- **データ**（過去から現在に至る情報の集合体：ビッグデータなどの情報資源）

天気予報も ICT の結晶

明日の天気を知りたいという希望から、予報は成り立っています。「気象衛星ひまわり」の**センサー（ハードウェア）**が送る可視映像や水蒸気などのデータを、地上のスーパーコンピュータが**過去の気象データ**と照合します。そして、**ソフトウェアが未来の天気図を生成**し、予報を実現しています。天気予報は、個人の行動だけでなく、農業、漁業、建設、商業といった産業においても不可欠な情報です。



未来を切り拓く ICT の貢献

現在の活動をよりよく補助

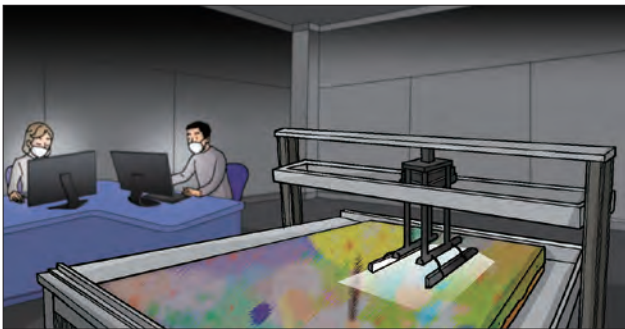


老化や事故で失われた身体機能や障害を補うための機器（アシストスーツなど）

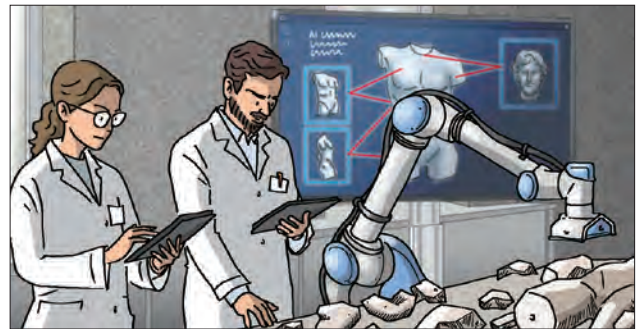


乗り物等での出入りが困難な場所への搬入・搬出の補助機器（パワースーツなど）

現在の仕事を代替



展示環境に伴う経年劣化を防ぐため、高精細スキャンによる複製展示（劣化防止）



壊れた遺跡や彫刻を AI が解析し、破片の組み合わせを提案（修復）

問題点

複製技術を「良い方向」に使えば価値あるものを未来に残せる。ただし、「悪い方向」に使えば 贋作作成（海賊版） など犯罪になる。

IoT※(モノのインターネット)をはじめとするICTの力で、言葉の壁や身体のハンディキャップを解決し、年齢や障害を問わず、誰もが自分らしく豊かに暮らせる社会を実現します。

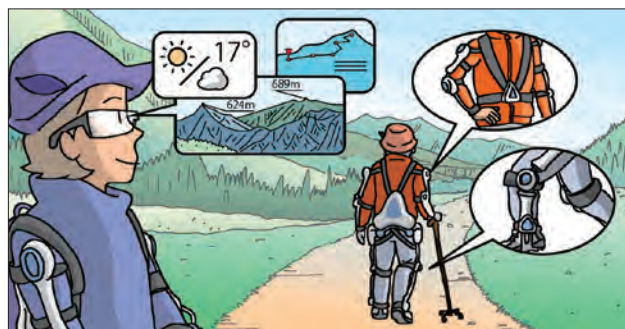
※ IoT (Internet of Things) : 世の中に存在するあらゆる物をインターネットと接続し、互いに情報交換できる仕組みや技術のこと。

人づくり | 年齢・性別・障害の有無に関わりなく豊かな人生を享受できる

包摂 (インクルーシブ)



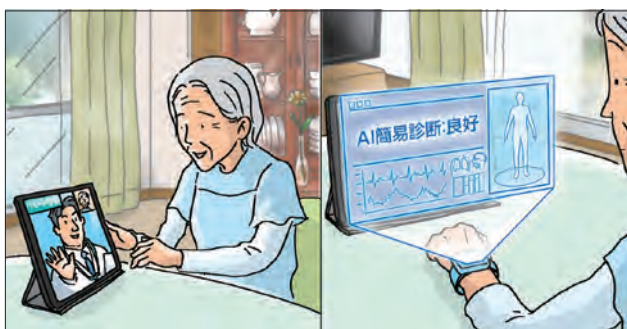
外国語もすぐに翻訳され、耳が聞こえにくい人も文字変換を通じてスムーズに会話できます。



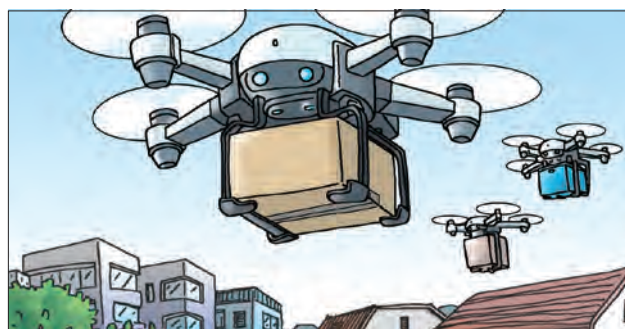
ARグラスが目的地までナビゲートし、補助アームが歩行をしっかりサポートします。

地域づくり | 距離と孤独と不便を解消する

連結 (コネクティッド)



医師がいない地域でも、リモートで診察を受けられたり、AIによる簡易診断ができるようになります。



センサーや通信技術を使い、ドローンが安全に荷物を配送するようになります。

産業づくり | 古い枠組みに固執せず新たな技術革新と共に柔軟に対応

変容 (トランスフォーム)



ICT活用を前提とした町づくりが行われるスマートシティ



商品を持って出口に行くだけで、自動で計算・支払いができるお店

「誰かの楽しい」を「誰もが楽しい」未来へ。視点を広げ、つなげ、考え続けることで可能性は広がります。ICTの力を適切に使って、これからの世界を自分たちの手で描いていこう。